

平成 30 年度図書館情報学海外研修助成報告書（抜粋版）

図書館情報メディア研究科 博士前期課程 1 年

201821624 中井ともこ

研究テーマ：デンマークにおける複合図書館の理念と実態：オーフスにおけるコンビ図書館に着目して

研修期間：2019 年 3 月 11 日～3 月 18 日

目的地：デンマーク・オーフス

訪問先：オーフス中央図書館 (DOKK1)、学校ラーニングセンター (Center for Læring)、バウネホイ図書館 (Bavnehøj Bibliotek)、イーイオー・コンビ図書館 (Egå Kombi-bibliotek)、ハーリウ図書館 (Harlev Bibliotek)、ヨーツホイ・コンビ図書館 (Hjortshøj Kombi-bibliotek)、セーブロー図書館 (Sabro Bibliotek)、スクストロプ・コンビ図書館 (Skødstrup Kombi-bibliotek)、トリーイエ・コンビ図書館 (Trige Kombi-bibliotek)

1. 研修目的

学校図書館と公共図書館の設置状況は国によって異なるが、デンマークでは両者が全基礎自治体に設置されている。ところがそのデンマークで近年、学校図書館と公共図書館が融合した「複合図書館」が増加している。申請者はこの複合図書館の理念と実態を、先進的事例であるオーフスを対象に解明することを研究テーマとしている。本研修ではオーフスに計 7 館設置されている複合図書館及びオーフスの学校図書館と公共図書館を統括する学校ラーニングセンター、オーフス中央図書館を訪問し、参与観察及び職員に対するインタビュー調査を行った。

2. 研修内容

2019 年 3 月 11 日から 18 日の 8 日間にわたり、デンマーク・オーフスにおいて調査対象となる施設を訪問した。特に学校ラーニングセンター、オーフス中央図書館、バウネホイ図書館においては職員に対するインタビュー調査を行うことができた。以下、その内容について報告する。

2.1 学校ラーニングセンター

学校ラーニングセンターでは、オーフスにあるすべての国民学校に教材を貸し出している。職員 A 氏に対するインタビューで、複合図書館は児童生徒と図書館との距離が近くなるという利点があることが分かった。一方で、児童生徒の教育及び教員の支援を目的とする学校図書館と、すべての市民へのサービスの提供を目的とする公共図書館では役割が異なるため、両者の混在によりその役割が果たされなくなることを危惧していた。

2.2 オーフス中央図書館

オーフス中央図書館の図書館サービス責任者（Leder af Biblioteksservice）のB氏にインタビューを行った。複合図書館の設置について、彼女は肯定的な意見を示した。学校の中に公共図書館の機能を備えることで、郊外に暮らす市民も平等に図書館サービスを受けられるからである。しかし一方で、一般市民が学校へ入ることに対する抵抗感や、図書館の入り口の分かりづらさといった問題点も挙げられた。

2.3 バウネホイ図書館

複合図書館のひとつであるバウネホイ図書館の職員C氏に対しインタビューを行った。図書館の利用者はほとんどが児童生徒であるという。公共図書館司書と司書教諭は基本的に別々の時間帯に勤務しているが、できるだけ多くコミュニケーションを取って、意見の交換や協力を努めているという。複合図書館では、ほかの公共図書館と比べて教員と密接にかかわることができるため、図書館での授業やイベントの企画に大きなやりがいを感じているという。しかし、現在多くの司書教諭は教員としても働いているため、複合図書館の増加は司書教諭への負担を強いることになるという指摘した。



図2 書架の中の空洞が遊び場にもなる本棚



図3 絵本コーナー

3. まとめ

今回の調査を通して、複合図書館には利点と課題があることが分かった。利点の一つは、郊外に住む住民に対し、足を伸ばして中央の図書館に行かなくても、近隣の国民学校で図書館サービスを受けられる保証ができる点である。また、学校に通う児童生徒に対しては、公共図書館及び読書をより身近な存在として感じさせることができるという利点がある。一方で、司書教諭の労働環境や、学校と公共図書館の役割の違い、図書館ごとのサービスの格差といった課題も存在していることが明らかになった。